

令和7年度 第1回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和7年8月6日（水曜日）午前10時から12時まで

<開催場所> 宇治市産業会館1階 多目的ホール

<出席者>

松村 尚	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
平井 恭子	京都教育大学 教授
真山 達志	同志社大学 教授
古澤 明	京都府山城広域振興局 局長
永田 悠祐	連合京都南山城地域協議会 幹事
水腰 英樹	株式会社京都新聞社 南部総局長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事長
森崎 恭平	市民公募委員
山本 奈々	市民公募委員

計11名

<事務局等>

川口 龍雄	宇治市 副市長
大北 浩之	政策企画部 部長
須原 隆之	政策企画部 副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課 課長
辻 親雄	政策企画部政策戦略課 副課長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 係長
北川 誠晃	政策企画部政策戦略課 主任

計7名

<会議次第>

1. 開会
2. はじめに
3. 議事

議事（1）第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総括（案）について

4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

2. はじめに

《事務局より挨拶》

3. 議事

議事（1）第2期宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総括（案）について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長）ありがとうございました。総括の案についてご説明をいただきましたが、只今の説明に関しまして、ご質問、ご意見がございましたら、挙手をお願いいたします。

委員）2点お伺いしたいです。

まず1つ目ですが、5ページの世代別の社会動態についてです。若者が就職で市外に出ていくと説明されていますが、宇治市内の企業に就職する人もいます。例えば任天堂やパナソニックのような大企業もありますし、今は高校生の就職活動も始まっています。

その中で、若者が就職先に求める条件は「基本給 20 万円以上」「週休 2 日」といったところで、20 万円を下回る企業はなかなか応募がないと聞いています。中小企業はなかなかその条件を満たせない現状があります。

そこで伺いたいのは、宇治市の中小企業支援の取組、特に「宇治 NEXT」という言葉を我々企業側ではあまり耳にしないのですが、実際どの程度周知されているのか、という点です。

次に2つ目です。31ページの中小企業の人材確保支援事業についてです。19社が参加し、20人の求職者が来場して1名が採用につながったとあります。この成果を多いとみるか少ないとみるか、市としての評価をお聞きしたいです。

また、この取組の対象者は、新卒を想定しているのか、それとも中途採用や即戦力を求める人材確保を目的にしているのか、その点も教えてください。

事務局) まず 1 点目の宇治 NEXT の周知についてです。これまで、市政だよりの特集号や合同企業説明会、デザインウィーク、オープンファクトリーなどを通じて中小企業の魅力発信を行ってきました。また、企業情報誌を発行して東京や大阪の展示会で配布したり、産業会館 1 階の「うじらば展示スペース」でも、市内事業者の製品やサービスを紹介しています。さらに、公式 Facebook や Instagram、市の LINE などでも宇治 NEXT の取組等、情報発信を続けています。

次に 2 点目の中小企業人材確保支援事業についてです。毎年、京都市内の会場で「宇治市ものづくり企業合同企業説明会」を開催していますが、来場者数は年々減少傾向にあります。令和 6 年度は 19 社が参加し、20 人が来場、1 人が内定に至りました。ただし、新卒採用か中途採用かは企業ごとに考え方が異なるため、一概に分けて言うことはできません。いずれにしても、この成果はまだ課題が残ると認識しています。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 聞きたいことはたくさんあるのですが、観光に関して 3 点伺います。

1 点目は観光データについてです。令和 6 年の数値が記載されていない部分があるように思いますが、これは目標年が令和 4 年だからなのか、それとも別の理由があるのかを教えてください。コロナが 5 類に移行したのが令和 5 年で、観光は特に影響を受けた分野なので、5 年と 6 年では数字が大きく変わっている可能性があります。6 年の数字を見て検討していただければいいかと思っの質問です。

2 点目は 7 ページの総括です。「交通状況や宿泊に対する満足度が低い」とあり、対策が必要とのことですが、まず市内のホテルや旅館の稼働率を把握されていますか。仮に稼働率が 7 割なら 10 割を目指すのか、それとも宿泊施設そのものを増やす方向なのか、対策のレベル感を知りたいと思いました。

3 点目は 8 ページのふるさと納税を活用した電子商品券についてです。観光客にとってお得に使える良い取組だと思いますが、実際にどのくらいの利用件数があるのか、また寄附をされた方は近隣の京都市や城陽市などが多いのか、それとも東京や横浜といった遠方の方が多いのか、その傾向を教えてください。以上 3 点です。

事務局) ありがとうございます。まず 1 点目の観光指標についてですが、令和 6 年度のデータは、観光動向調査が令和 6 年の秋から令和 7 年春にかけて実施されており、現在、観光振興課で整理中です。そのため今回は記載しておらず、第 3 期（令和 7 年）の数値として反映する予定です。

2 点目の宿泊施設の稼働率については、事務局では現時点で把握できておらず、データを持ち合わせていません。

3 点目のふるさと納税については、令和 6 年度から「おでかけ納税」を導入し、現在、飲食店など市内 30 店舗超が加盟しています。令和 7 年度は 50 店舗以上を目標として

います。令和 6 年度の利用件数は 50～100 件程度ですが、利用者がどの地域から来ているかの詳細は、改めてご報告させていただきます。

それから補足です。リピーター増加のための対策についてご質問がありましたが、満足度向上のためには宿泊施設を単純に増やすだけでは不十分だと考えています。交通や宿泊、飲食、観光案内、安心して楽しめる環境整備など、観光全体での満足度を高めることが重要であり、そうした総合的な取組を進めていきたいと考えています。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 11 ページについてです。総括のところに「宇治茶の普及を図ることができた」と控えめに書かれていますが、実際には、宇治茶の売上が大きく伸びています。京都府の資料では、宇治市内の宇治茶の取扱額が令和 2 年度は 5,300 万円だったのが、令和 6 年度には 9,800 万円と、約 1.8 倍に増えています。こうした具体的な数字も総括に盛り込んでもいいのではないかと思います。

次に 14 ページの「宇治市への愛着」についてです。「愛着が強い」が 69%とありますが、これはやや低い印象です。例えば私の故郷の三島市では 87%と出ています。宇治市の場合、高度経済成長期以降に造成された住宅地の方は、子ども時代を宇治で過ごしていないため愛着が低いのではないかと推測しています。もしエリア別のデータがあるなら、その点を確認したいと思いますがいかがですか。

対策については、小中学校時代の経験が愛着形成に大きく関わると思いますので、17 ページにある“宇治学”のような取組を今後も充実させていただければと思います。

事務局) ご意見ありがとうございます。まずお茶の売上についてですが、ご指摘の数値についてこちらでも確認したうえで、どのように総括へ反映できるか検討してまいります。

次に愛着度についてです。昨年度に実施したアンケートで、年齢別に「どんな点に愛着を感じているか」や「足りないと感じていること」を把握しています。ただし、高度経済成長期以降にできた住宅地など、エリア別の分析まではできていません。世代ごとに愛着の感じ方はさまざまですので、そうした分析を深め、数値をさらに高めていけるような施策を検討していきたいと考えています。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 子育て支援と教育について感じたことをお話しします。

まず、基本目標 5 の「子育てしやすい環境や支援の満足度」が低いのが気になります。施策自体は、公園を活用した取組など工夫もされていますが、今のお母さんたちは子育てだけでなく、仕事との両立を希望する方が増えています。ですので、安心

して預けられる保育所やこども園がしっかり確保されていて、しかも保育の質も担保されていることが重要だと思います。報告では待機児童はゼロとなっていますが、実際には「潜在的待機児童」がいるのではないのでしょうか。たとえば兄弟で同じ園に入れないケースなど、数字に表れていない部分もあると思います。そうした潜在的な待機児童の数を把握しているのか、また対策はどうなっているのかを伺いたいです。

もう一点、子育て家庭の経済状況についてです。米の高騰などで負担が増している中、夏休みには給食がないため、栄養が偏る子供もいると聞きます。児童館に水だけ持ってくる子もいると耳にしました。こうした家庭への支援を、市としてどのように行っているのか、具体的に教えていただければと思います。

事務局) ご質問ありがとうございます。まず、潜在的な待機児童についてです。国の基準ではゼロとなっていますが、実際には兄弟で同じ園に入れないなど、数字に表れないケースもあると思います。市としても、窓口でお母さん方の相談を受けながら、希望園が難しい場合には次の候補を案内するなど、待機児童が出ないように対応しています。次に、子育て世代の経済状況についてです。国でも無償化などが議論されていますが、宇治市としてはこれまで、相談の場づくりや子育て環境の整備に力を入れてきました。ただ、ご指摘のように経済的な支援も重要ですので、次期計画の中で検討していきたいと考えています。

物価高騰への具体的な対策としては、市民全体への支援として水道料金の基本料金を減免しており、この6月補正でも延長しました。子育て世帯向けには、給食費が値上がりしないよう、市が補助を行っています。今後も国の動向を見ながら、必要な支援を講じていきたいと考えています。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 私は宇治市の子育て支援拠点を運営している立場から現状をお伝えし、質問をさせていただきます。まず現状ですが、6月以降は参加者が倍増しています。出生数は減っているのに、広場には低年齢の赤ちゃんが増えているのが特徴です。共働きが多く、1歳で仕事に復帰するお母さんが多いため、0歳児の利用や入所希望が増えているのだと思います。その一方で、希望する園に入れずに困るご家庭も多く、待機児童の要因になっていると感じています。特に制度改正で「空きがあっても希望園でなければ育休手当が止まる」という事情もあり、保護者の悩みは深まっています。

次に質問です。総括案には「子育て世代の転入超過は施策の効果が出ていると推察」とありますが、本当に施策によるものかを明らかにするため、アンケートで理由を把握してほしいです。実際には「親の実家に戻る」というケースも多く、施策だけでなく地域性や家庭事情も関係していると思うからです。

最後に余談ですが、最近のお母さん方は子育ての情報源がネット中心になり、特に

ChatGPT を使う人が増えています。ChatGPT は労いの言葉をかけてくれるので心強い反面、人とのつながりが減る不安も感じます。支援拠点としては、やはり顔を合わせて人と人との関係を築いてほしいと思っています。

事務局）子育て世帯の転入超過についてですが、やはりこれまで実施してきた子育て施策の成果が表れていると考えています。昨年度のアンケートでも、子育て世代の方々が宇治市を選んだ理由として、「相談できる場所があること」「子どもが安心して遊べる環境が整っていること」などが挙がっており、満足している方も半数以上いらっしゃいます。こうした満足度が、転入者数にも反映されているのではないかと分析しています。

また、ChatGPT のようなデジタルツールを利用する方も増えていますが、やはり同世代のお母さんたちと対面で悩みを共有したいというニーズも根強いです。そのため、子育て拠点などの対面支援の意義は大きく、今後も対面でできる施策はしっかり検討していきたいと考えています。

委員長）はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員）37 ページからの国の地方創生関係の事業についてです。財源や補助率を見て、事業によって交付金の額がだいぶ違うなという印象を持ちました。

そこで質問なのですが、まずこの事業の募集方法と、採択した理由を教えてください。また、補助率が 2 分の 1 ということなので、実績報告に基づいて交付金が決まると思うのですが、その報告内容はどのくらい精査されているのでしょうか。さらに、費用対効果の観点で、効果がある事業は今後も続けるべきか、逆に改善や見直しが必要な事業はあるのか、どのように検証しているのかをお聞かせください。

事務局）ありがとうございます。地方創生の交付金の応募についてですが、国への申請は募集期間に合わせて京都府と連携し、庁内では前年度の予算編成の時期からテーマごとに整理してまとめ、申請しています。

実績については毎年評価して費用対効果も確認しており、その結果をもとに翌年度の継続実施を判断しています。必要であれば、3～5 年の期間で再度申請して事業を続けることもあります。

委員長）はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員）私は宇治に住んで 2 年ちょっとになりますが、日々感じていることを市民協働の面からお話したいです。まず一つ目は、町づくりが行政だけのものになりすぎていないかということです。住民の意見や声がまだ弱くて、「行政がやってくれるもの」と思っ

てしまう方も多いように感じます。一方で、若い世代は自分たちで動き出す人も増えていて、SNS や地域活動で小さな実践を積み重ねています。こうした若い芽を大切に、市民と行政が信頼し合える関係が育つ町になるといいなと思っています。

2 つ目は、市民と行政を「つなぐ人」の存在です。対話が上手で信頼関係を築ける職員さんがいると、事業も円滑に進み、市民の参加意欲も高まります。でも年度が変わると担当が変わることもあり、事業が停滞したり、コミュニケーションが途切れてしまうこともあります。市民も「またか」と諦めてしまう場面もあると思います。

この 2 点を踏まえて 3 つ目ですが、第 3 期の戦略では、制度や計画だけでなく、「人の力」や「関係性」も町の力として意識してほしいです。具体的には、まちづくりの担い手の育成や、つなぐ役割の職員の継続的配置、市民の声が届きやすい仕組みづくりなどです。数字だけでは見えない、信頼やつながりといった本質にも目を向けたあたたく力のある町づくりを期待しています。

事務局) たくさんのご意見ありがとうございます。おっしゃっていただいた市民協働や市民参画については、第 6 次総合計画でも重要な柱になっていて、第 3 期のまち・ひと・しごと創生総合戦略でも、地域コミュニティの活性化や多様な主体の共生社会づくりとして位置づけています。まちづくりの主役は行政ではなく、市民の皆さんが主体的に考えることが大事だと認識しています。

また、職員が異動すると事業が止まってしまうのではという懸念も承知しています。そのため、宇治市では市民協働のプロジェクトチームを組織して、複数の課が分かれて動くのではなく、同じ目的で協働できるようにしています。ですので、職員が異動してもチームで動き続ける体制になっています。市民と職員と一緒に考え、手を携えてまちづくりができるよう取り組んでおります。ありがとうございます。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 先ほど宇治茶の話が出ましたが、ちょっと教えてください。令和 6 年度の総取扱金額が過去最高を更新して、さらに倍増したと聞きました。平均価格も 2 倍以上になったそうです。山城エリアの産地としては喜ばしいことだと思います。

ただ、今後は小売段階でも価格が高騰すると考えられます。第 3 期の戦略でも宇治茶の振興が盛り込まれていましたが、価格高騰や品薄によって消費者の宇治茶離れが進むことも懸念されます。宇治市として、こうした点について何か対策や考えはありますか。

事務局) 少し難しい質問ではありますが。確かに最近お茶の人気の高まっていて、価格も上がっていますので、小売価格のコントロールは市場の問題もあり、宇治市として直接どうするというのは難しい面があります。ただ、宇治市としての役割は「市内産の宇

治茶をどう守るか」だと考えています。例えば、手摘みや覆い下など伝統的な技法を守るために、茶農家さんへの補助や支援を行っています。また、茶摘み人手不足の問題には「茶摘みバンク」を作って希望者を集めたり、市からの補助で広報活動を支援したりして対応しています。要するに、宇治市としては価格そのものを調整するのではなく、宇治茶や茶農家を守ることに重点を置いて取り組んでいる、というのが第 3 期の戦略でも位置付けられている考え方です。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 3 点ほど気になったところがあります。まず 3 ページの KPI 達成状況です。「全体の 4 割強の指標が目標を達成しており、取組を進めることができた」というコメントですが、正直ちょっと違和感があります。民間企業で言うなら、4 割達成で「取組を進めた」とは普通言わないと思うんです。数字と文章にギャップを感じます。

次に 11 ページの宇治茶活用事業です。「大河ドラマ関連」と「新規採用職員さん、市主催会議での提供」の順番が逆じゃないかなと思います。外向け PR の方が重きになるはずなので、並びを見直した方がいいと思います。

最後に 22 ページの「人・物の交流活性化事業」です。鉄道駅やバスの乗降客数の変化が、実際の事業でどれくらい増えるのかが少し見えづらいです。たとえば六地蔵のサポート道路ができて、バスの利用者が増えるとは限らないので、次の第 3 期ではもう少し実態に沿った目標設定や事業の紐付けを検討してほしいです。

事務局) ご意見ありがとうございます。まず KPI の評価についてですが、たしかに全体の 4 割強達成という表現には違和感があるかもしれません。実際には未達成の指標もあり、評価が難しい面もあります。ただ、第 2 期はコロナの影響もありつつ、取組自体は着実に進められたという認識です。表現の仕方については、いただいたご意見として今後の参考にしたいと思います。

11 ページの順番の問題についても、どちらに重きを置くか見直し、より適切な表現になるよう検討します。

最後に鉄道乗客数の KPI についてです。これは第 3 期でも交通環境充実の指標として設定していますが、数値だけで成果を測るのは難しい面があります。今後は、どの取組がどの成果につながったのか、より結び付けて評価できるようにしたいと考えています。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) ちょっと雑談っぽくなるんですけど、33 ページにあった「公園でつなぐ子育てにやさしいまちづくり」の件です。先日子どもと公園に行ったら、すべり台が熱すぎてす

ぐ帰ったんです。今の暑さだと外遊びも結構危ないです。でもページを見ると、黄檗公園や西宇治公園で移動式遊具や日陰棚を設置する予定になっていて、見ただけで「行ってみようかな」と思えるんです。ただ黄檗公園のプールは今年度から営業中止で、詳細設計が令和 7 年、運営は 8 年以降ということになっていました。参考までに、城陽市のプールは夏休みに 1,000 人ぐらい来るけど水代だけで赤字、久御山町は平日は開放するけど、土日やお盆は町民限定で安全を守って運営しているんですね。ということは、安全面の制限か、収益確保のためか、どちらかを意識して運営していると思うんです。もし宇治市が 7 年度以降に設計して 8 年以降に運営するなら、こうした他市の状況も参考にして、外から来た人も「行ってみよう」と思えるような設計にするといいんじゃないかと思いました。

事務局) 子どもが遊べる場所については、アンケートでも「もっと欲しい」という声を多くいただいています。そこで、黄檗公園や西宇治公園の遊具を少しずつ充実させてきました。黄檗公園のプールも、建設から時間が経って不具合が出ていたので、改修を進めているところです。設計の段階から、より多くの子どもたちが楽しめる工夫を考えて、宇治市の子どもたちにたくさん来てもらえるようにしていきたいと思っています。

委員長) はい。ありがとうございます。では他の皆さんいかがでしょうか。

委員) 遊び場について少し感じていることをお話しします。茶づなの施設について資料では来館者数の話が多かったんですが、実際に子育て世代や私たち世代の間では、茶づなの前の広場でのイベントがよく話題になります。芝生があって、茶畑や川を眺められる環境がすごく良くて、そこで子どもが絵本を楽しんだり、バドミントンをしたりして遊んでいます。施設の中に入るというより、周りの芝生をうまく使った活動が増えていて、今後も期待できそうだなと思っています。ありがとうございます。

事務局) 茶づなについては、確かに前に広い芝生の広場があって、指定管理者や宇治市も含めていろいろなイベントを行っています。ご指摘の通り、子どもが遊べる場所はとも求められているので、場所の使い方やイベント内容も含めて、庁内で連携しながらしっかり進めていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。

委員長) 他によろしいでしょうか。本日は、第 2 期総合戦略の総括案について多くのご質問やご意見をいただきました。表現方法やデータの取りまとめ方など、事務局で参考にして修正を進めていただきたいと思います。また、第 3 期の取組に関しても参考となるご提案やアドバイスをいただきましたので、市の方で参加にして取り組んでいただければと思います。総合戦略以外の市の施策についてのご指摘もありましたので、

関係部署にもお伝えいただければと思います。

以上の点を踏まえ、今回ご用意いただいた総括案の全体については、この委員会です
承いただいたという認識でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

これで本日の議題は終了です。引き続き、事務局からご連絡事項があればお願いします。

《事務局より事務連絡》

《副市長より閉会の挨拶》

4. 閉会

《委員長より閉会の挨拶》